

COVID-19 陽性患者さんと接触した場合のリスク評価と対応

【1】 当院スタッフが COVID-19 陽性患者と接触した場合のリスクと対応

<参考ガイドライン；CDC（Centers for Disease Control and Prevention：アメリカ疾病予防管理センター）Guideline、日本環境感染学会ガイドライン>

この項目は、COVID-19 陽性患者さんに当院スタッフが濃厚接触した場合、低リスクに留め就業制限を避ける（在宅医療崩壊を避ける）ためにまとめました。

COVID-19 陽性かもしれない患者さん・利用者さんと接触した場合の適切な PPE（Personal Protective Equipment＝個人防護具）の基準を整理しました。

① 曝露リスクとその対応

曝露リスク	健康観察の方法 (最終曝露から14日間)	無症状の接触者に対する 就業制限
高リスク	PCR検査(保健所指示に従う) +積極的観察	原則最終曝露日から14日間 就業制限
中リスク	積極的観察	原則最終曝露日から14日間 就業制限
低リスク	自己	不要
リスクなし	不要	不要

健康観察：積極的

➡所属部門が接触した職員に対して、発熱または呼吸器症状の有無について1日1回連絡確認し、有症状時院長・事務長に報告する。

健康確認：自己

➡接触した職員が発熱または呼吸器症状を認めた場合、直ちに院長・事務長に連絡する。

<POINT>

- 1、患者さんがマスクを装着しており、スタッフもマスクを装着していれば低リスクが維持される。
- 2、マスクをしていない患者さん対応には、マスクと目の保護が必要。
- 3、体位変換など患者さんと接触する場合には、サージカルマスク、ガウン、手袋着用。
- 4、エアロゾルを生じる処置では、N95、目の保護、ガウン、手袋着用。
- 5、分泌物や排泄物に直接接触した場合は手指衛生を行う。

②COVID-19 陽性在宅患者さん発生した時

マスクを装着している COVID-19 陽性患者と長時間(1)の濃厚接触(2)あり		マスクを装着していない COVID-19 陽性患者と長時間(1)の濃厚接触(2)あり	
医療従事者の防護具着用状況と接触状況	リスクレベル	医療従事者の防護具着用状況と接触状況	リスクレベル
医療従事者の PPE: 着用なし	中リスク	医療従事者の PPE: 着用なし	高リスク
医療従事者の PPE: 目の保護あり、ガウン、手袋着用 サージカルマスクまたは N95 着用なし	中リスク	医療従事者の PPE: 目の保護あり、ガウン、手袋着用 サージカルマスクまたは N95 着用なし	高リスク
医療従事者の PPE: サージカルマスクの着用 目の保護・ガウン・手袋着用なし(3)	低リスク	医療従事者の PPE: サージカルマスクの着用 目の保護・ガウン・手袋着用なし(3)	中リスク
医療従事者の PPE: 目の防護なし サージカルマスク、ガウン、手袋は着用	低リスク	医療従事者の PPE: 目の防護なし サージカルマスク、ガウン、手袋は着用(4)	中リスク
医療従事者の PPE: 目の防護あり、サージカルマスク着用 ガウン・手袋の着用なし(3)	低リスク	医療従事者の PPE: 目の防護あり、サージカルマスク着用 ガウン・手袋の着用なし(3)(4)	低リスク
医療従事者の PPE: すべて着用 (N95 ではなくサージカルマスクを着用)	低リスク	医療従事者の PPE: すべて着用(4) (N95 ではなくサージカルマスクを着用)	低リスク
防護具なしで陽性者の横を歩いた	リスクなし	防護具なしで陽性者の横を歩いた	リスクなし

(1) 接触時間の目安について、旧ガイドでは3分以上を一定時間としていたが、海外の各専門機関の指針等を踏まえて全般的に“15分以上”を長時間の基準に変更した。ただし、患者と医療従事者が共にマスクを着用せず、外来診察など近い距離で対応した場合は、3分以上でも感染リスクが発生する可能性もある。そのため、時間だけで明確にリスクのあるなしを決定せず、その際の状況も踏まえて判断する必要がある。

(2) 濃厚接触の判断：参考例として以下のような場合は濃厚接触ありと判断する。

- ・手で触れることの出来る距離（目安として1メートル以内）で、適切な個人防護具を使用せず、一定時間（目安として15分以上）の接触があった場合
- ・患者の気道分泌物もしくは体液等の汚染物質に直接触れた可能性が高い場合

(3) **体位変換など広範囲の身体接触があった場合は、ガウン・手袋装着がない場合中リスク**となる。

(4) **大量のエアロゾルを生じる処置（気管挿管・抜管、NIPPV 装着、気管切開、心肺蘇生、用手換気、気管支鏡、ネブライザー療法、誘発採痰等）を実施する場合、または同室に滞在した場合：N95 未着用の場合、リスク評価が1段階上がる。**

目の防護なし・N95 マスク着用の場合：高リスク

目の防護あり・サージカルマスク着用でガウンと手袋未着用：中リスク

【2】濃厚接触の定義の変更（再確認）

<table border="1"> <tr><td>接触期間</td></tr> <tr><td>発症した日から逆算</td></tr> </table>	接触期間	発症した日から逆算	変更 ⇒	<table border="1"> <tr><td>接触期間</td></tr> <tr><td>発症の2日前から</td></tr> </table>	接触期間	発症の2日前から
接触期間						
発症した日から逆算						
接触期間						
発症の2日前から						
<table border="1"> <tr><td>接触距離</td></tr> <tr><td>適切な感染防止策なしに 2m程度の距離</td></tr> </table>	接触距離	適切な感染防止策なしに 2m程度の距離	変更 ⇒	<table border="1"> <tr><td>接触距離</td></tr> <tr><td>適切な感染防止策なしに 1m程度の距離</td></tr> </table>	接触距離	適切な感染防止策なしに 1m程度の距離
接触距離						
適切な感染防止策なしに 2m程度の距離						
接触距離						
適切な感染防止策なしに 1m程度の距離						
<table border="1"> <tr><td>接触時間</td></tr> <tr><td>3～5分以上</td></tr> </table>	接触時間	3～5分以上	変更 ⇒	<table border="1"> <tr><td>接触時間</td></tr> <tr><td>15分以上</td></tr> </table>	接触時間	15分以上
接触時間						
3～5分以上						
接触時間						
15分以上						
<table border="1"> <tr><td>以下は変更なし</td></tr> <tr><td> <ul style="list-style-type: none"> ・同居または長時間接触 ・適切な感染防止策なしで診察・看護・介護 ・体液に直接触れた後、手指衛生を実施しない場合 </td></tr> </table>			以下は変更なし	<ul style="list-style-type: none"> ・同居または長時間接触 ・適切な感染防止策なしで診察・看護・介護 ・体液に直接触れた後、手指衛生を実施しない場合 		
以下は変更なし						
<ul style="list-style-type: none"> ・同居または長時間接触 ・適切な感染防止策なしで診察・看護・介護 ・体液に直接触れた後、手指衛生を実施しない場合 						

【3】まとめ

- 1、可能な限り、患者さんにはマスクをしてもらい、医療従事者はサージカルマスクを装着する。
- 2、患者さんがマスクをできない場合、サージカルマスク、目の保護を行う（フェースシールド、アイシールド、ゴーグル）。
- 3、患者さんに広範囲に接触する場合には、サージカルマスク・目の保護に加えて、ガウン、手袋を装着する。
- 4、エアロゾルを発生するような医療行為を行う場合は、N95マスク、目の保護、ガウン、手袋を着用する。
- 5、COVID-19感染は接触、飛沫感染であることから、防護具なしで患者さんの傍らを通ってもリスクはない。